

教職員自己紹介

牛島 和夫 (うじしま かずお)

社会情報システム学科・教授

コンピュータがこの世に登場してそろそろ 60 年になる。1968 年に ACM (米国計算機科学協会) がコンピュータサイエンス・カリキュラム 68 を発表した。これはコンピュータサイエンスが物理学や数学、電気工学、統計学などと並んで独立して教えるべき内容を持った学問分野だという独立宣言である。



1970 年に我が国の 5 つの国立大学理工系学部情報工学科や情報科学科が初めて設立された。九州大学と九州工業大学の情報工学科は 1 年遅れて 1971 年に設立された。これらの学科の教員たちの出身は、電気工学であったり、物理学であったり、数学であったりさまざまであった。情報専門学科出身者はいなかった。それまでに情報専門学科が存在しなかったのだから当然のことである。ちなみに筆者は学部では数理工学を学び、1963 年に九州大学に計算センターが設立された際に講師として赴任した。従って、学生時代に情報工学を学んだわけではない。計算センターを立ち上げそれを運営するために実際の場で身につけてきたものである。

新しい分野の確立には人材の養成が必須である。したがって、私の研究活動も社会連携活動もほとんどすべて教育活動を端緒とするものであり、その延長線上にあったといえる。

ソフトウェア開発支援環境の発想は学生のプログラミング演習を能率よく効果的に行うための工夫から始まった。そのために作った Fortran プログラム動的解析ツール (Fordap と名付けた) の実際について「Fortran プログラミングツール」(牛島著、産業図書、1979 年) でまとめている。Fordap は多くの情報系学科で使用され、産業界でもいくつか使用された。

日本語文章推敲支援ツール「推敲」の研究開発も学生諸君の書いてくる文章を添削し指導する手間の一部をコンピュータで肩代わりできないかという要求から生まれた。開発を始めたのは 1983 年である。その後 S 社との共同研究によりパッケージ化して 1993 年に岩波書店からソフトウェア著作として出版した。作成したパッケージは増刷分も含めてすべて売り尽くしたということである。このパッケージは MS-DOS の上で動くものであった。しばらくして MS-DOS は市場から姿を消して Windows が支配する時代になる。Windows の上で動く「推敲」を直ちに市場に出すことが出来なかった。なんとか「推敲」をもう一度身近で使いたいと考えていた。

2001 年 3 月に九州大学を停年で退職してから、共同研究者の松野了二教授 (熊本県立大学) と協力して Windows 版を試作した。情報科学部 2 年前期に「日本語表現法」を筆者が担当することになっている。この講義の中でこれを活用する予定である。

<略歴>

1976 年 12 月 九州大学工学部情報工学科教授

1984-1986 理工系情報学科協議会会長

1988-1994 文部省大学設置審議会工学専門部会委員

1990-1999 文部省工学視学委員

1994-2000 日本学術会議情報工学研究連絡委員会委員

1996 年 5 月 九州大学大学院システム情報科学研究科発足。研究科長併任

2000 年 4 月 九州大学大学院システム情報科学研究院長・同学府長併任

2001 年 3 月 九州大学停年退職

2001 年 4 月 財団法人九州システム情報技術研究所所長

2002 年 4 月 九州産業大学情報科学部教授、学部長併任